

伊都國

(王墓)

古代国家「伊都国」。それは魏志倭人伝に「代々王あり」と記述され、強大な力を持っていたと言われている。それを裏付ける史跡が今に残されている。



国指定史跡

1 平原遺跡 □ WC 地図A-2

(ひらばるいせき)

■弥生時代後期～終末期(2世紀頃)
伊都國の王墓と考えられる1号墳を中心とした墳

墓遺跡で、昭和40年(1965年)に発見されました。
副葬品は銅鏡40枚、鉄刀1本、ガラス製勾玉やメノウ製管玉などの玉類が多数出土しました。銅鏡の中には直径46.5cmの内行花文鏡(日本製)が5枚あり、これは日本最大で非常に貴重なものです。また、ひとつずつの墓から出土した銅鏡の枚数も弥生時代では日本一多く、伊都國王の墓にふさわしい内容です。

また、副葬品の中に武器はほとんどなく、ネックレスやフレスレットなどのアクセサリーが多いことから、この墓に葬られた人物は女性、すなわち女王ではないかと考えられています。出土品は国宝に指定されており、伊都國歴史博物館に展示されています。



国宝 内行花文鏡



国宝 メノウ製管玉

2 田藤瀬家住宅 □ 地図A-2

(たとうふじゅせき)

日中津藩の庄屋を務めた神佐の藤瀬家の住宅を、平原歴史公園内に移築復元したもので、元文2年(1737年に建築された九州では最古級の民家建築です。力や葺き寄棟造りの大型住宅で、役人を迎える玄関や座敷など、江戸時代中期の庄屋住宅の特徴を残しています。

藤瀬家は中津藩主在村庄屋職を務めていたことから、多くの古文書類も残されており、伊都國歴史博物館で保管しています。



国宝 ガラス製勾玉



国宝 ガラス製勾玉

5 石ヶ崎支石墓 □ 地図A-2

(いしがさきしせき)

■弥生早期から前期(紀元前4～前2世紀)
昭和24年(1949年)に発掘調査が行われ、それは支石墓ではわが国初の計画的な調査でした。発掘調査では、支石墓1基、墳相墓23基、土壙墓3基が発見されています。

上石は長さ3.2m、幅2.8mの巨大なもので、副葬品として碧玉製管玉12個が出土した非常に珍しい支石墓です。



市指定史跡 三雲南小路遺跡 地図A-3

(みくもみなみしうじいせき)

■弥生時代中期後半(紀元前1世紀頃)
この遺跡は江戸時代終わりごろの文政5年(1822年)に発見されました(1号墳)。その後、昭和50年(1975年)、福岡県教育委員会によつて発掘調査が行われ、新たに2号墓相が発見され、銅鏡22面以上、ビスイ製勾玉、ガラス製勾玉、管

玉などが出土しています。

1号墓相からは銅鏡35面、銅劍、銅戈、銅矛、勾玉、管玉、璧、金銅製四葉座飾金具が出土してお

り、江戸時代に出土した銅鏡1面と銅鏡1本が福

岡市内の神寺に伝えられ、国の重要文化財に指

定されています。

弥生時代の墓としては巨大なもので、他には見

られない豪華な副葬品を持つことから、伊都國の

王の墓であると考えられています。また、副葬品

の内容から1号に王が、2号に王妃が埋葬された

と考えられます。

出土品の一部は近くの伊都國歴史博物館に展

示されています。



4 井原鍵溝遺跡 地図A-3

(いわらやりみぞいせき)

■弥生時代後期(紀元1～2世紀)
郡井原村の鍵溝という所から銅鏡を多数副葬し

た。このとき発見された出土品は現在伝えられ

ています。これが井原鍵溝遺跡で

いましたが、その図が柳國古器略考(青柳種信著)に記録されています。それによると銅鏡21

面、巴形銅器3個、刀剣の類、鏡の板の様なものなどが出土しています。出土した銅鏡はすべて中国製のものです。この墓相は出土品からみて弥生時

代後期(約2000～1800年前)のものと考えられ

ます。

この遺跡も出土した豪華な副葬品から伊都國

王の墓と考えられ、三雲南小路遺跡に埋葬された

王の何代か後の王が埋葬されたものと考えられ

ます。

現在、遺跡の場所は不明ですが三雲南小路遺

跡の南約100mのあたりに「井原字ヤリミソ」とい

う地名があり、その下に井原鍵溝遺跡は眠ってい

ると考えられています。

